

「夢募集」応募用紙

応募 代表 者	学部・研究科名	学科・専攻	学年	ふりがな 氏名
	環境科学部	環境	2	もとなが あいな 元永愛菜
構成メンバー (代表数名)		学部・学年・氏名を記載してください。(サークルの場合は、サークル名) ちやり再生法研究会		
夢のタイトル (テーマ)		放置自転車の有効利用		
夢を抱いた 意図・動機		長崎大学に毎年出る放置自転車の削減・放置自転車の有効利用 および長崎大学の景観の美化を行いたい		

(具体的な夢の内容)

➤ はじめに

長崎大学は毎年平均として 200 台以上の放置自転車が出ている。その自転車のほとんどが、さびだらけになって、学内のあちこち放置されているのは、景観も悪く学内の限られた敷地を無駄に使っていると思う。その放置された自転車のほとんどは少し手を加えて修理することで再び乗車することが可能な自転車である。もう一度修理をし、乗れる状態にして学生の手に戻したい。そうすれば、学校をもっときれいにすることができ、活動を通して、物を大切にすることを学生に伝えることができることができる。それは、環境問題が盛んに叫ばれている今日に必要なものであるのではないかと考えている。

1、目指すもの

放置自転車の数減らすために、自転車の循環システムを運営したいです。

放置自転車は、卒業生が学内に置いていくことが主な原因のひとつではないかと考えています。そこで、卒業生からの自転車回収、希望者への譲渡、再び回収のサイクルを作りたい。そうすることで、自転車の数を一定に保つことができると思います。学内の自転車の数を一定に保つことができれば、放置自転車は無くなります。学内の景観は改善されますし、大学内でこのシステムを成功させることができれば、長崎市内へも広めていくことができるのではないかと考えました。そのために、事務管理などを行う拠点が必要となります。そこで、自転車の収納、工具の管理、運営の事務所、イベントの開催場所として利用します。

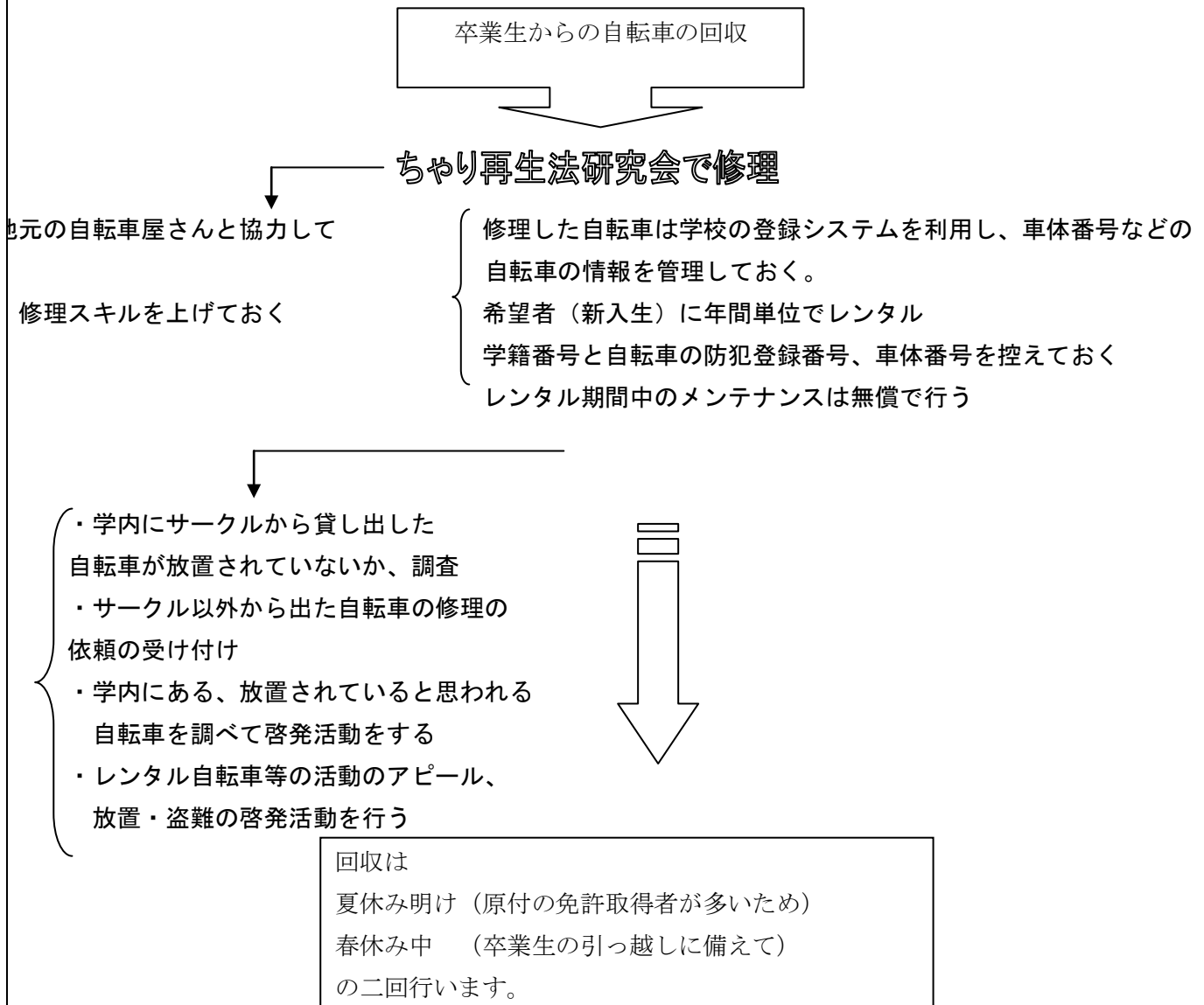
2、達成に向けて

I 自転車の循環システム

なぜ、放置自転車の数が減らないのか、それぞれの立場から問題点をあげてみました

これまでのサークルの問題点	学生の問題点	長崎の問題点
修理できる範囲が狭い 自転車を管理できていない 定期的に集まる場所がない 自分達が修理し送り出した自転車の行方を知らない	修理できることを知らない 工具の使い方を知らない 自転車の捨て方を知らない 盗難自転車が多い	さびるのが湿気や潮風の影響ではやい。 自転車をとめるところがない

この循環システムで、サークルの問題点を解決します。





サークルのメンバーでメンテナンスを行う



希望者へ譲渡

(デポジット制度を導入し、自転車を返すとお金が戻ってくるという手法をとる。)

このサイクルを繰り返します。使えないと判断した自転車は、解体して部品として保存します。

II 長崎大学生や大学関係者に向けた定期間のレンタルサイクル。

年間でなく、必要な時に、必要な期間中に自転車を貸し出します。

学生の問題点の一つである、盗難自転車が多いことの原因としては、使いたいときに自転車がないからだとおもいます。いつでも簡単に借りられる自転車があれば盗難車がへり、自転車のリサイクルももっとスムーズになります。

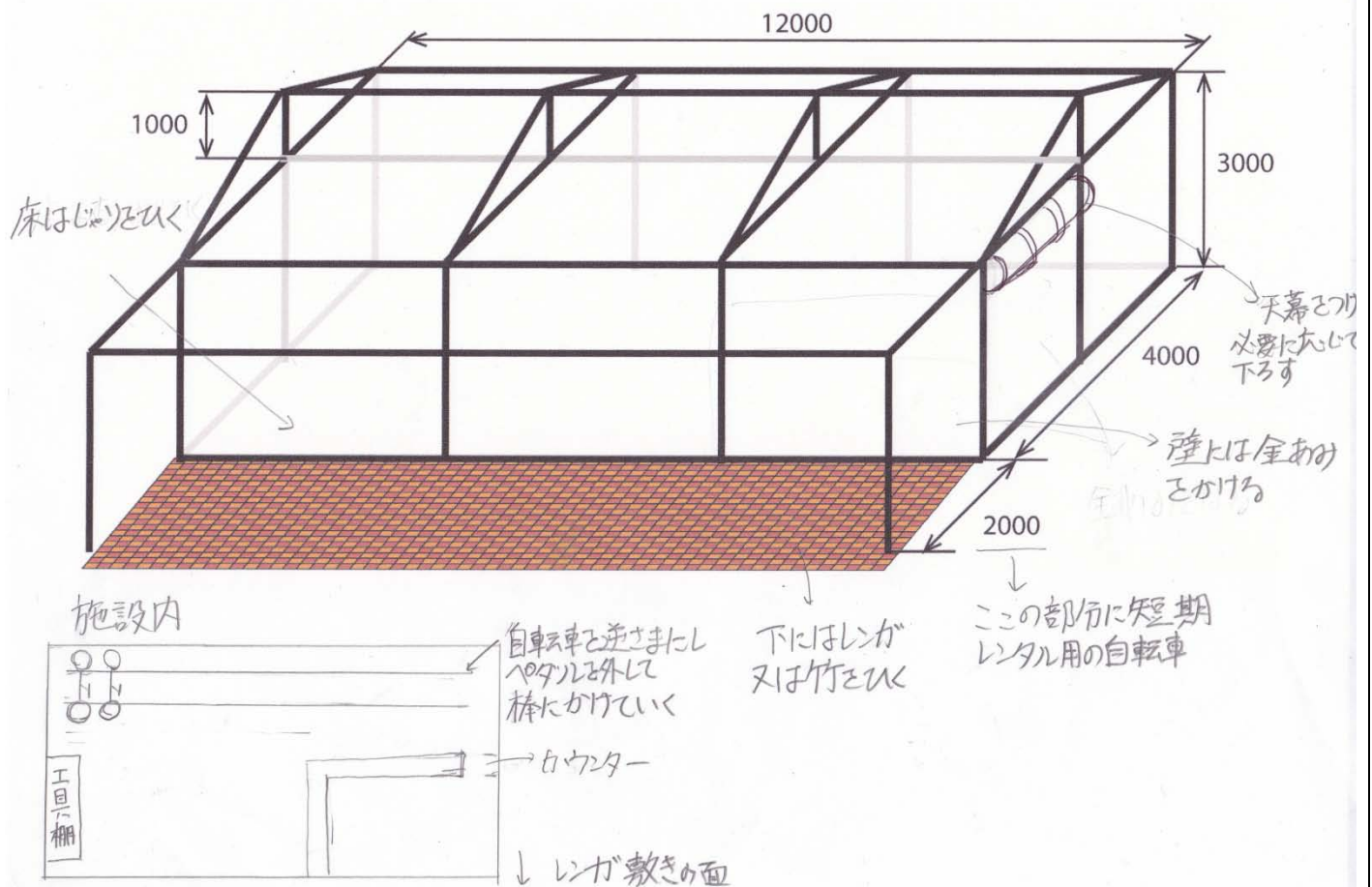
施設に常にレンタル用の自転車を置いておきます。一週間、一カ月単位で貸し出しをします。

III 定期的な修理講習会、

学生の問題点の一つに挙げられている修理の仕方がわからないという問題を解決します。

自分で修理ができるようになれば、簡単に放置することもなくなります。

定期的に基本的な自転車の修理講習会を開きます。その際に必要な工具はいつでも使えるように置いておきます。やり方がわかるようになれば、いつでも自分ですることができます。



保存場所イメージ図

① 期レンタル用の自転車を保管する場所

雨よけが付いた場所。下に水がたまらないように下に「レンガ」か「竹」を引く。

一台一台、鍵でつないでおき、借りたい自転車が決まったら自転車に名前札をつけておいてもらう。月曜と金曜の週2回に、貸し出しを行う。緊急で必要な時は、対応できるメンバーが随時対応していく。回収も貸し出しと合わせて行う。

② パンク、チェーン修理、ねじの調整を行える工具を置く

やり方がわかる人はいつでも使うことができます。小屋の外に工具棚を設置し、利用希望者は名簿に名前と連絡先をメールで送るだけで利用できるようにしておきます。

② 長期レンタル用の自転車を保管

メンテナンス、状態の維持のために車庫内に入れておく。

前輪のタイヤを外し、棒にたてかけて立てて保存する。200台ほどを目標にする。

この方法であれば、多くの自転車を限られたスペースでも確保することができる。

部品も併せて保存しておき、修理の依頼の受け付けの際に取り換える

③ 工具棚

サークルのメンバーが使う用の工具を保管しておきます。

④ 事務所

自転車、個人の情報管理、お金の管理、サークルのメンバーがいつでも話し合いができるようにするための事務所を置く。

ここで、自転車の状態をチェックし、レンタル自転車の受け付けなどを行う。また、ボランティアや、何か活動を行いたい人にも開放し、いつでも使えるようにする。

また、今回東日本大震災をうけ、災害時の交通手段として、自転車の必要性が高まってきたと思われる。そこで、海外や、震災の援助として自転車を送る活動をしていきたいと思っているので、そのための集会所の役割も持たせる。

➤ 自転車小屋の機能

システムがうまく回るようになれば、状況に応じて小屋の規模を調整していく必要がある。そこで、素材には鉄パイプと、ビスマス管をつかう。仮立ての状態ですべての部品を揃えておく。柔軟性を持った小屋にしておく。撤去の際にも学生の力だけで行うことができる。比較的、簡単に元の状態に戻せるようにしたい。

➤ 目指す学生の姿

身近な環境活動として自転車（資源）の有効利用を長崎大学の学生に根付かせる。

最近日本は震災や福島原発の影響で急速に環境や eco についての関心が一般市民の間でも高まってきています。しかし、自分たちに何が出来るのかが分からず環境活動に積極的に動けていない学生が多い現状があると思っています。

そこで、自分が使っている物を大切にすること・大切に扱うこと・少し壊れても自分で修理ができることが、誰にもできる環境活動の一環であるということに気付いてほしいと考えています。

(実施のための組織と予算等)

フェンス

正面・裏面 $36\text{m}^2 \times 2 = 72\text{m}^2$ 430 円 $\times 72 = 30960$ 円

左右 $12\text{m}^2 \times 2 = 24\text{m}^2$ 430 円 $\times 24 = 1728$ 円

見積もり小計 $30960 \text{円} + 1728 \text{円} = 32688$ 円

天幕

正面・裏面 6000 円, 左右 3000 円, 天井 10000 円, 骨組み 100000 円, 基礎工事 60000 円

小計 179000 円

修理工具 50000 円

合計 261,688 円

組織

自転車再生委員会のメンバー(14名)

修理班 9名

事務班 2名

企画班 3名